

ごみゼロ県民セミナー

～あなたの行動を大きなごみ減量につなげませんか～



本日は、ようこそ
お越し下さいました。

みんなで一緒に
ごみ減量について考え、
そして行動を
はじめませんかゼロ。

三重県ごみゼロキャラクター「ゼロ吉」

日時 平成20年7月19日(土)
13:30～16:00(受付13:00)

場所 三重県総合文化センター
生涯学習センター4階 大研修室

主催：三重県
【ごみゼロ推進室 URL) <http://www.eco.pref.mie.jp/gomizero/>】

本日のプログラム

【開会あいさつ】（13：30～13：40）

【講演】（13：40～14：55）

テーマ

～消費者の声企業が変える、ごみを減らす～

講師

プログミーツカンパニー 代表 広田 奈津子 氏

講演・企画・環音イベントコーディネーター、

総合的な学習（総合学習）・国際理解教育（開発教育）実施

1979年生まれ。2002年2月「環音」を主宰として立ち上げる

2002年3月南山大学外国語学部イスパニヤ科卒業

2006年2月プログミーツカンパニーを代表として立ち上げる

2007年なごや生物多様性アドバイザーに就任

注）「環音」は、音楽の場を通じて音楽と平和とエコロジーを繋げる、ゆるやかなネットワークです。アジアの東ティモール独立の際に発足しました。

【休憩】（14：55～15：10）

【事例発表】

テーマ

～レジ袋削減の歩み～

1. 発表者（15：10～15：30）

伊勢市環境部資源循環課 課長 阪本 保夫 氏

2. 発表者（15：30～15：50）

伊賀環境問題研究会 代表 立田 彰子 氏

【意見交換会】（15：50～16：00）

【閉会】（16：00）

みんなでめざそう “ごみゼロ社会”

メールマガジン
登録受付中!

風呂敷っていろいろ使えて便利だよ♪

マイバックを持ってお買い物♪

お出かけにはマイボトル♪



ごみゼロ県民セミナー講演

テーマ：消費者の声が企業を変える、ごみを減らす

講師：ブログミーツカンパニー 代表 広田奈津子 氏

(司会)

それでは、ただいまより、ブログミーツカンパニー 代表 広田奈津子様より「消費者の声が企業を変える、ごみを減らす」と題しまして、ご講演をいただきます。

ブログミーツカンパニーは、消費者から提案のあった様々なエコ提案を企業に伝え、提案を実現した企業を応援するという活動をしてまいります。又、広田様ご本人は、音楽ネットワーク「環音」の主宰を務め、平成22年に名古屋市で開催することが決定した生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)に関連してなごや生物多様性アドバイザーとして参加されています。

それでは広田さま、よろしく申し上げます。

(広田)

こんにちは、広田奈津子です。愛知県から来ました。三重県には何かと縁がありまして、よく来る機会があります。三重県は人が温かいし、自然や伝統が残っているし、素敵ですね、私はすっかり三重ファンになっています。

私は、幼い頃から親しんだ森が開発のために伐採されたのを見たことから環境の問題に興味湧いて、今、環境の活動をしているという流れです。

先ほどちょっと紹介していただきましたが、「環音」という音楽交流をいろんな国に出かけて行って、その国の音楽を教えてもらって、日本の音楽と一緒に交流をしたりとか、また日本国内でもそうなんです、昔の山の暮らしがどのようなだったか、どうやって炭を焚いて、どうやって循環型の暮らしが営まれていたか、そういったところにすごく興味がありまして、青森だとか沖縄、奄美大島、そして三重の吉野の奥のほうのおばあちゃんに会ったりとか、ハワイ、あとはアジア、タイ、東ティモールなど、いろんなところを回って、そういう自然と共生する文化に学んでいます。

今日は、そうした世界を旅する中から発想が生まれまして、活動に立ち上げた「ブログミーツカンパニー」という活動を紹介していきたいと思えます。

この活動がNHKで取り上げられましたので、ちょっとご覧ください。

～映像～

(MC) 企業に対して積極的に提案をしている名古屋市の市民グループのことです。

(ナレーション) 納豆に付いてくる容器やカラシの袋、食べ終わるとごみになってしまいます。それを大幅に減らしたのが、こちら、包みは木の皮にして、タレもカラシも省いています。

この商品が実現したのは、ある市民グループの活動がきっかけでした。

グループの代表、広田奈津子さんです。

2年前にホームページを立ち上げ、市民から企業への提案を集めています。

“ストップ！付属調味料”“洗剤の計量スプーン廃止”提案それぞれに賛同者を募ります。グループでは、賛同者が多い提案から企業に働きかけます。もし企業が提案を実現したら、担当した人に報告、それぞれが口コミやメールなど、さまざまな形で企業を応援します。

例えばごみを減らした納豆の場合、発泡スチロールの容器を見直し、タレやカラシは別売りにして欲しいという提案をメーカーが受け入れ、実現したのです。

広田さんたちは、納豆が発売されて以来、積極的に購入しています。

さらに、知人や友人を訪ねて、商品を進めています。

企業に要望するだけでなく、応援していくことが大切だと考えています。

(広田) やっぱり売れないと、企業さんも作り続けることができないじゃないですか。だから、みんなで応援して広めていかないといけない。

(ナレーション) 今実現を目指しているのは、量り売りコーナーを設置する提案です。容器は自分で用意して、ごみを減らす。賛同する声は100件を超えています。

この日、広田さんたちは名古屋市内のスーパーを訪ねました。

ホームページに寄せられた要望を直接伝えるためです。

(広田) スーパーでの量り売りを増やすという提案が人気ナンバーワンになりまして、そのお願いに今日は伺いました。

(ナレーション) 持ってきた容器に直接魚や肉などを入れてもらえれば、ごみが減るのではないかと提案しました。実現した場合はスーパーを応援していくことも伝えました。

(広田) こういうコップを私たちが作ったほうがいいのであれば作りますし、何でも勿論協力をさせていただきますので、お願いします。

(ナレーション) 生鮮食品を直接入れると、衛生上の問題が起きるのではないかという課題も挙がりましたが、今後も両者で実現を目指していくことになりました。

(広田) お客さんも買い方を考えていく、企業のほうも売り方を考えていく、やっぱりどっちかじゃなかなか難しいと思うんですね。やっぱり両者が歩み寄ることで、ごみがすごく減るんじゃないかなと。

(MC) すごい行動力ですね。こうやって言い続ける生活者でありたいなと思います。

(MC 2) 素晴らしい取り組みだと思います。

～映像終了～

(広田)

ありがとうございます。ブログミーツカンパニーの活動をちょっと見ていただきました。これがホームページなのですが、皆さんのお手元にも資料が行っていると思いますが、これ、もう一度説明しますと、まず一番左に「エコ提案を思いつく！」とあります。これは何でもいいんですね。例えばここでは「チョコの箱を再生紙で」と書いてありますが、何でも受け付けているので、中には「スポーツジムで走っているあれを発電機にできないか」とか「ジャニーズでいつも売っている団扇を国産の竹で作ったらいいんじゃないか」とか、結構いろんな、特に小学校や中学校に授業に行っていて、提案を募ると、突拍子もないものが出てきておもしろいですが、そうした提案をこのホームページではリストにします。リストにしまして人気投票をします。最初に人気ナンバーワンになったのが、さっきの納豆の提案だったんですが、今はそれが電鉄会社だとか量り売りコーナーになっています。

例えば納豆の提案に100人の意見、コメントと名前が来た場合、その100人のコメントとともに企業に届けます。で、企業さんがもしそれを実現してくれれば、私たちはその100人にお知らせを送ります。実現したよ、応援してねと。その100人が5人でも10人でもいいから、口コミでみんなに伝えます。最近は「ブログ」と言って、インターネットでホームページに日記を書く人が増えていますので、そうした記事にさせていただくといろいろな人が、何人もが見てくれるんですが、そうやってみんなで口コミで応援して、企業もメリットがある形を見出そうということで、やっています。

これは実は2003年頃にアジアで森林伐採を目の当たりにしまして、それが心から離れなくて、日本に帰ってきてから製紙会社に1人で電話したんですね。そうしたら、そうした原生林を伐採して紙を作るんじゃなくて、日本にある木材を使って紙を作ってくれたら、ちょっと高くても私は買いたいと思うと言ってみたんですが、その後何も反応がなく、や

っぱり1人じゃダメなのかなと思って、いっぱい集めてみようと思った時に、ちょうどアメリカの友人が、最近おもしろい事件があったよと教えてくれたんです。

ブログが流行ってきて、インターネットで日記を書く人が増えてきた。企業は、テレビコマーシャルにお金を払うよりも、人気の日記の作者にちょっと袖の下を渡して、日記の記事に書いてもらおうと、テレビコマーシャルを打つよりも売れるということで、それが賄賂じゃないかということで問題になって、訴訟まで起こされたという事件があったというのを聞きまして、これは逆にチャンスだなと。

これから、メディアというのが口コミの可能性がどんどん広がっていくのであれば、これは逆手に取って、コマーシャルされていないものでも環境にいいものは口コミで買い支えていくことで、企業は行動を変えていけるんじゃないかなと思って、2006年にこの活動を立ち上げました。

ちょっとイラストもふざけていて、ふざけた人たちなんじゃないかと思われるんですが、いたって真剣にやっております、というのは、私は今この地球の環境問題、これは人類史上初めてぐら大きな難問にぶつかっていると思うんですが、この地球の環境問題、これを解決する鍵となっているのが、他ならぬ消費者の力じゃないかなと思っています。

いろんな土地を旅しますと、紛争地、紛争があったばかりのところへも行く機会があるんですけども、そうしたところを見ると、私たちが買う商品だとか、私たちが使う資源のために紛争が起こされて資源が運ばれてきたりしています。そうした問題というのは、なかなか地元の政治を変えようと思っても、何十年かかってもなかなか変わらないんですが、消費者の行動が変わることによって、企業が行動を変えて経済界が変わっていくと、簡単に国に動きが変わったり、そういうことを目の当たりにしてきました。

一つ例があるんですが、イタリアのシチリア島というところ、行ったことのある方、いらっしゃいますか？いらっしゃいませんね。イタリア半島の先っぽに付いている島なんですけど、とっても海がきれいなところなんですけど、そこで16歳の頃に1ヶ月ぐらいホームステイしたことがありまして、その家のお母さんはアニータという女性で、とてもきれいな人だったんですが、そのアニータとお話をしていた時に、私は日本に彼がいて、「いつか結婚するよ」なんて、そのあとすぐ別れちゃったんですけど、いつか結婚するよなんて話をしていたら、アニータは「そうなの。いいわね」と言っていたんですが、私がふと見たら、アニータの指に指輪がないんですよ。「あれ？アニータ、結婚しているのに指輪がない」って言ったら、彼女は「私はダイヤモンドをもらわないことにしている」と言うんです。

私は16歳で、びっくりしまして、「えっ、もらわないなら私に頂戴よ」みたいなことを言っていたんですが、そうしたらアニータが、「奈津子、ダイヤモンドの背景で何が行われているか知りなさい」と。

その頃は今から13年ぐらい前ですが、ダイヤモンドはアフリカで掘られているんですが、そのアフリカでは一つの企業のほぼ独占状態で、地元の政治を変えてまでダイヤモンドを掘らせて、その土地にもともと住んでいた人は暴力で蹴散らされて、そこでダイヤモンドが掘られてしまう。そうしたダイヤモンドを私たちは要らないと言って断っているんですということを言ってくれたんです。だから、「奈津子、あなたは背景まで美しい物を身に付けなさい。そうしたら、きっと美しい女性になれるのよ」ということを教えてくれました。それを言ってくれたアニータの顔は未だに忘れられません。

そうやって着飾るんじゃなくて、女性が凛として、私のポリシーに合わないものは選びません。私はこうした物が欲しいから、これを作ってくださいという態度を示すことがとても女性を輝かせるんだなというのを、その時思いました。その時のことがずっと頭にあって、こうした活動につながっているんですけど、そうやって、アニータのその後の活動が、ついにデ・ビアス社というダイヤモンドの独占企業がありましたけど、そうしたダイヤモンドの会社がダイヤモンドにマークを付けて、このダイヤは人の血が流れていませんよという、「フェアトレード」と呼ばれますけれども、そうしたダイヤを売り出すなど、それでアフリカ現地の死んでいた人々がだんだん紛争が減っていったということにもつながりました。これも一つの、現地ではなかなか改革もできず、政府も変わらなかったけれども、消費者が動いたことで紛争が減ったという一つの大きな例だと思います。

なので、私たち市民は小さくて無力でという考えがありますが、私たち市民こそ鍵を握っていて、この地球規模の環境問題を解決する、それに導く鍵を私たちこそが持っているというのを、ちょっと頭に置いていただければと思います。

じゃあ、ここでホワイトボードを使いながら説明して行きたいと思いますが、そのように世界を旅していると、結構日本が有名なんです。いろんな土地に行っても、日本は結構有名なんです。私もびっくりしたんですが、特に環境に関心のある人の中でも有名なんです。

二つありまして、一つは日本が持続可能な文化を最近まで持っていた。これは里山文化とか、海外でも有名ですが、山から持続可能な形で木を切り出してきて、それをまた山が育つようなスピードで使っていく。食べ物も、漬物だとか発酵食品だとか、そういった食

の文化の古い伝統があって、年中そうした食の多様性の中で暮らせるようになっている。しかも、自然を食い潰す形ではなくて、足ることを知る文化と禅の文化がヨーロッパのほうでも有名ですが、そうした足ることを知る文化で回っているというのがとても美しいということで、海外でも有名で、それを聞くと結構私も嬉しくなったりします。

一つおもしろい例が、私のイタリアの友人で同い年の女の子ですが、その子はよく服を作る、洋裁をする子なんです。その子が「最近、着物の縫い方を本で読んでびっくりしたのよ」と言うんです。着物を縫ったことのある方、みえますか？結構いらっしゃいますね。浴衣を縫うと、私も最近気付いてびっくりしたんですが、あれは全部ほどけば反物に戻りますね。それがヨーロッパの彼女からすると「美しい！これは日本の文化を表している」と言うんですね。端切れが出ない。無駄を出さない。だけれども、反物を巻くだけじゃなくて、その中で端切れを出さずして、いかに立体的に着るかというところを追求しているところが、これこそが文化であると言ってくれました。そういうのを聞くととても嬉しくなるんですが、そういった意味で、禅の文化だとか循環型の社会という意味で日本が有名であること。

もう一つ有名なのが、日本の消費活動が世界中の資源を食い潰してしまっているという点で有名なんです。私も、アジアで森林伐採を見たり、ヨーロッパで10年前はたくさんサンゴがいて魚がいた海が、とっても生き物が少なくなってしまう。「これはどうしたの？」と聞いたら、底引き網で全部魚を取っちゃって、日本の寿司にしたんだよ。日本は高く買ってくれるから、みんなそうやって底引き網で、底引き網は要る以外も全部取っちゃうんですが、そうやって手当たり次第に取って日本に送れば、とにかく金になる。アジアのほうでも、「この森林、何で切っちゃうの？」と聞くと、日本に送って紙にするんだよ。

これは日本人としてとても心が痛むところでして、一時落ち込んだんですが、でも、これは逆に言えば、日本人こそが地球全体で起きている環境破壊の形を変えることができる。その鍵を私たちこそが持っていると思ったら、なかなか可能性につながるんじゃないかなと思ひまして、例えば日本の消費者がその森全部を伐採するんじゃなくて、間伐という形で50%切ってパルプにしてよ、2割高くなってもいいからそうしてと言えば、現地の人はずうするんです。誰も何も自然を壊したくて壊している人に、どこへ言っても1人も会ったことがないんですね。消費者が求めるものを作っている、それだけなんですよね。なので、私たち日本人、もしかすると日本の主婦の方がものすごく大きな解決の鍵を

世界で握っているのかも知れないなというのを思いました。

今日は、ごみをテーマにお話していきますが、まずごみを減らすとなぜいいのか、どんなメリットがあるのかということをごちゃごちゃと考えていきたいと思っています。例えばこれだけあったごみをこれだけにした場合、どんなメリットがあるか。まずは、ごみ出しが楽ですよ。少いで済む。これは結構重労働じゃないですか。毎週、毎週重いごみを出すのは結構大変です。そして、ごみの処理費も減る。これは処理費はだいたいどれぐらい皆さん税金で払っているかご存知ですかね。これは国の『環境白書』を参考にしてみますと、だいたい1人1ヶ月に1,600円ぐらい払っている計算になるそうです。

ごみは日本では有料化されてないと言われていますが、ごみは有料のはずなんですよ。皆さん、払っているはずなんですね。月に1,600円も払っている。これがごみが減ることによってその処理費も減る。しかも、埋立処分場だとかごみ処分場を造らなくてよくなれば、それだけ自然を壊すことも必要なくなりますよね。埋立処分場もいらなくなる。

しかも、昔、豆腐を鍋で買ったことのある方、豆腐を入れ物で買ったことがある方、いらっしゃるでしょうか？お若い方でもありますね。すごいですねえ。三重にはまだ残っているとか？今もあるという方？すごい！豆腐屋さんに行きに行くんですか？豆腐屋さんが回ってくるんですか？あの笛を吹いて？車で？すごいですね。

スーパーで豆腐を買うと、黙ったまま買えちゃいますよね。一言も発せず買えちゃいますよね。でも、豆腐をそうやってお鍋で買いに行くと、会話が要りますよね。「豆腐ちょうだい」「いくつ？」という会話が要る。そういうごみが減る社会というのはコミュニケーションが取り戻される社会じゃないかなと思います。そして、子どもたちに長く大切に使うこと、使い捨てて行くんじゃないで、いいものを高くてもいいから買って、何代も使っていくことを教えることができる。

いいことづくしですけども、さらに今たいていのごみはプラスチックが多いですね。このプラスチックは、皆さんご存知のとおり石油から作られます。この石油は、私も石油が掘られる現場によく行く機会があるんですが、この石油が掘られる現場もとってもひどいことになっている地域が多いんですね。まず、もともとあった自然を壊して巨大な石油基地を造らなければいけません。で、それを壊す時に必ずと言っていいほど人が暴力を受ける結果になってしまいます。

このようにして掘られる石油ですが、運ぶ時に大きな船で、これは大きなものと東京タワーぐらいの大きなものが使われていますが、タンカーで運ぶ時もCO₂がたくさん出

されます。そして、これを掘る時にもCO₂がたくさん出されます。そして、石油が日本に運ばれて、使う時にもCO₂を出しますよね。これを石油で作ったものをリサイクルして、もう一回まわしても、この時にも残念ながらCO₂を出してしまって、現在問題になっている気候変動の原因になっているんじゃないかと言われてますね。

こうしたごみを減らすことで、こういう石油にまつわる問題をも減らしていくことができる。そう考えると一石何鳥ですかね。このごみを減らすということが一石何鳥にもつながるんですね。これ以外にもメリットがあるよと言う方はいますか？ごみを減らすメリット。それぐらいですかね。

一石何鳥にもなるごみを減らすということですが、こんなにいいことがたくさんあるなら、これは減らさない手はないんじゃないかというところに行きますが、皆さん、自分の暮らしの中で「このごみ、減らしたいな」と思うものはありますか？このごみが目立つ、このごみを減らしたいと思うもの。

(参加者1)

容器は減らしたいですね。包装紙とかね。

(広田)

容器とか包装紙は多いですね。他にはありますでしょうか。

(参加者2)

ダイレクトメールです。ほとんど読まないですからね。

(広田)

多いですね。他にありますでしょうか。

(参加者3)

さっきの納豆の件もそうですが、本来の食品に必要なか不要か分からない付属品ですね。ヨーグルトの粉シュガーとか。

(広田)

他にありますでしょうか。

(参加者4)

お弁当を取られる時に、プラスチックの仕切りとか醤油の入れ物とかプラスチックの花とかアルミ箔の小さなトレイ、あのアルミ箔がやっぱり焼却場の運営について何千万というお金が要るんですけど、本当に要らないものがお飾りで付いてくる。

(広田)

ありがとうございます。こういうふうに挙げていくと、商品って一つもないじゃないですか。買った商品、私たちが本来お金を払いたかったものが一つもないですよ。実は日本全体で見ると、この容器包装、商品以外のものは6割を占めると言われています。

これは、私たちはお金を払ってごみまで買ってしまっているということになっちゃいますね。この容器もタダじゃないんですから、例えばケーキ屋さんに行ってケーキを入れてもらう箱、あれは20円ぐらいすると言いますね。その20円は何もお店がサービスで出しているんじゃなくて、勿論商品の価格に上乗せしているわけです。だから私たちはごみまでお金を払って、そして家に帰って、面倒くさいけどそれを「またごみが増えちゃったな」と思いながらごみ出ししなければいけない。これがなかなかごみが減らないジレンマになってしまっているんですね。

ここを企業が変えることで、これが大きく減るんじゃないかというところに着目したいんですよね。例えば、企業さんに電話など、例えばお弁当でこれが無駄だなと思って、企業に伝えたことはありますか？

(参加者4)

お料理屋さんに対してはあります。おたくのはそれが入っていないから買いますというふうにして、なるべく入れないでくださいというように伝えたことはあります。

(広田)

素晴らしい。それで返事はどうでしたか？

(参加者4)

そういうふうに言ってもらえると嬉しいわと言ってもらって、でも、そのお店屋さんが他の人からは敬遠されるんですよ。結局、私がどれだけ要らないと言っても、他の人にそういうことを理解してもらわないと、要らないということをみんなに伝えないと、それこそブログだとか口コミでやらないと、他の人はそのお店を敬遠してしまうんです。今はそれが悲しいですね。だからそのごみ問題というのが、まだまだ庶民が、私たちが考えていないということが、今、現実だと思います。

(広田)

なるほど。他には、企業に声を伝えたことがある方。これ、無駄だなと思って、企業に声を伝えたことがある、お客様コールセンターに電話をして、伝えたことがある人はどれぐらいいらっしゃいますか？いらっしゃらないですかね。これはとても少数派かも知れないですね。

アメリカのデータで、製品を買った人のうち、何か企業に伝えたいと思った人のうち、企業に実際に伝える人はわずか4%だと言われているんですね。96%の人は、何か思っても企業に伝えないまま、やり過ごしてしまう。だから、企業のほうは逆に4%の意見をちゃんと聞かないと、次の商品づくり、次のビジネスチャンスにつながらないよということで、クレームが来たらその後ろに96%の人がいると思いなさいという経営戦略がよく言われていますけれども、アメリカは、訴訟があんなにしょっちゅう起きている国で4%ですから、日本人でしたら多分100人いたとして1人ですか、1%の人しか企業に声を届けていないのかも知れないですね。

でも、企業のほうは、例えば何か最近無駄だと思ったことは何かありますか？製品を買った時に、例えばお菓子でもいいですし、洗剤でもいいですし。

(参加者5)

過剰包装がありますね。例えばハサミを買くと、プラスチックでくるんで、ボール紙が挟んであって、もう一回包んでというふうにしてありますよね。もしそれを買った時に要らなければ、そこで剥がして置いてくる、ヨーロッパだとそれができるんですけど、日本はできないので、ごみは買いたくないということが多々ありますね。できるだけ要りませんとは言いますが、言ってもすでに包装されているものはダメですよ。

お菓子なんかも過剰包装じゃないですか。

(広田)

そうですね。世界中見ても、こんなに過剰包装している国はないんじゃないかと思えますけど、飴が一つひとつビニールの袋に入って、クッキーなんかだとさらにトレイに入って、それをさらにビニールでくるんで、ひどい場合はもう一回紙の箱に入っていますね。それはもう世界断トツの過剰包装の国じゃないかなと思えますけれども。

他には何か製品を買われて気付いたことはありますか？

(参加者6)

クッキーでも二重にも三重にもなっていますので、本当にごみを買っているようなことになりますね。

(広田)

ありがとうございます。

じゃ、例えばそのお菓子の会社に手紙を届けたとします。皆さん、おうちでごみを減らそう、減らそうと思っていらっしゃると思えますけれども、なかなか減らないじゃないで

すか。生ごみをコンポストにして、なるべく無駄なものを買わないようにしても、どうしてもこの6割の容器包装が付いてきてしまう。これを減らすのがとっても難しい。「私、先月1トンごみを減らしたわ」なんていう人はいないと思いますけれども、もし企業に声を届けて、例えばナビスコが「分かった。じゃあ、そのトレイは外しましょう」と言ったら、もしかしたらその1ヶ月で1トンごみが減るかも知れないんですね。それを考えると、家での自分のごみを減らすことも大切だけれども、大きなところも変えようというのがとても楽ちんで、しかも電話代はかからないですからね。お客様コールセンターは大抵の場合。なので、そうやって他力本願にごみを減らすことが結構簡単にできるんです。

私たちも、この最初に出た納豆ですね。納豆のタレ・カラシは要らない、ごみを減らしたいという提案を、日本全国のだいたい10の納豆企業に送ったんですが、やっぱりすぐ返事が来まして、で、本場茨城の納豆会社からすぐ返事が来まして、タレ・カラシが本当に要らないなら、私たちも助かるんですよと言うんですよ。その納豆屋さんは代々納豆を作っているけれども、タレ・カラシを付け出したのは最近のことだと。最近と言っても何十年になるんですが、なので、自分のところでタレを作れないんですよ。醤油もああいうカラシの自分のところで作っていないから、あれは他の企業さんから買っていて、だから結構コストもかさんじゃっているから、本当に要らないなら私たちも助かるんですよと言うんですよ。

なので、消費者を集めまして、もう一度本当にタレ・カラシが本当に要らないのかという座談会を開いて、その意見をまたまとめて送って見たら、「じゃあ、勇気を持ってタレ・カラシを外してみます。そしてその分、豆のグレードをちょっと上げて、価格をそのままにして売り出してみます」ということで、製品化してくれました。

このように、私たちはこの容器が邪魔だなと思っている。このクッキーのトレイは要らないなと思っている。でも、企業のほうは、このトレイを外しちゃったら不親切だよな。もう買ってくれないかも知れないなという恐れから、私たちからするとありがた迷惑をしてくれちゃっているんですね。そこが96%の人が会っていないために、ミスマッチが起きてしまっている。そこを会わせていこうということですね。

その企業を会うことが、実はこれが楽しいんですよ。その納豆会社の社長も、茨城で代々やっている頑固そうな親父さんなんですけど、名古屋に来てくださって、私は6時間ぐらい納豆の話を聞きましたけれども、そういう普段絶対に会えなさそうな人に、ブログミーツカンパニーの活動をしていると会えるんですね。それで納豆の由来から伝統から体にか

にメリットがあるかという話をたくさん聞くことができまして、とても楽しく思いました。

それで、実は 96%の人が企業に声を届けることで始まって、「じゃあこの試作品だけど食べてくれない？」とか、私のところにもその日以来、毎夏、納豆のお中元がどっさり納豆会社から届くんですが、そうやって人間関係が始まって、実はおもしろい人が結構たくさん環境部だとか、小さな会社だと社長さんだとか、そういったところにいまして、そういう会話を始めるのがとっても楽しいですね。これは受け身から主体に変わるということだと思います。今まで受け身で、コマーシャルで流れているものを「そうか、あの製品が出たのか。じゃあお店に買いに行こう」「あの製品は赤と青しかないなら、赤と青の中から選ぼう」と受け身で買っていたものが、何で赤と青しかないんだろう、私は黄色が欲しい。じゃ、黄色が欲しいと届けてみよう。「黄色が欲しいんですか？黄色が欲しい人は他にもどれぐらいいますか？そんなにいるなら、じゃあ黄色を作りましょう」となったら、消費者のほうは受け身じゃない楽しさがあるんですね。これはおそらく私たちサルの時代から群れで生きていますから、話し合いを本能的にしたいんじゃないかなと。みんな一人じゃなくて、話し合うことでいい結果を見出していくことが本能的に楽しいんじゃないかなと思うようなことも感じました。

そうした日本の過剰包装になるということなのですが、ちょっとヨーロッパの例を見ていきたいと思います。日本の場合、多くは安全のために過剰包装したりしていますね。異物が混入するんじゃないかとか、クッキーが割れちゃうんじゃないかとか、そういう理由で過剰包装がされちゃったりします。でも、ヨーロッパを見ても、何ら問題なく過剰包装なしでスーパーなどで物が売られています。この食を巡る安全の問題ですけれども、最近いっぱい事件が出てきていますが、どうでしょう、昔、鍋で豆腐を買っていた時代、そこに会話があって、作り手と買い手がそこで顔が見えて、そういう時代には逆に安全の問題はなかなか起きなかったんじゃないかなと思います。商品をくるんで、くるんで、安全に、安全にしたつもりでも、鉄でくるまない限り、人のコミュニケーションが希薄になったらどんどん危険は増えていくんじゃないかなと思います。

このヨーロッパのスーパーは、こっちは野菜で、こっちはパンなのですが、ほとんど剥き出しの状態です。グラムで売っています。ビニール袋も有料で置いてあるんですね。なので、自分で袋を持って来なかった人は袋を買うんですが、このおばちゃんなんかも自分の袋を持ってきて、そこに野菜を入れちゃって、レジで量って支払うということをしています。これは小さいスーパーです。このようにして、トマトも、こんなの、日本だとあり得ない

ですよね。道の駅だとよくありますけれども。これだと労力の無駄も省かれて、結構ワールドな形で売られています。これは粉類ですが、こっちはコーンフレークだったり、小麦粉の種類だったりしますが、これも自分の容器に、この秤で量って、この容器に買うことができる。そうしたら、自分の家に帰って詰め替える手間も省けて楽なんですよ。

これはペットボトルじゃなくてビンを使おうということで、これはドイツですが、たくさんビンの飲料が並んでいます。このビン、これ、ちょっと見えますかね。白い線がここに付いていますが、日本だとこの傷が付いちゃうともう廃棄、リサイクルに回しちゃうんですよ。でも、ドイツは何ら気にしない。この白い線を気にする人はいますか？この白い線が付いていたら買わないという人？1人もいないじゃないですか。でも、企業さんは、この白い線が付いていたら失礼に当たるとか、汚いと思われるとか、そうすると売りが下がるんじゃないか、みたいな下手な心配をしてリサイクルに回してしまう。ドイツは結構キズキズのビンがまだまだ元気に並んでいました。

これは野菜を量る機械です。ちょっと大型のスーパーに行くと、レジでいちいち量ってられないということで、例えばリンゴだここにリンゴを乗せて、「リンゴ」のボタンを押します。そうすると、ここで「リンゴ」を選んで押すんですが、そうすると小さなシールが出てきて、それをレジに持っていけば精算できるというシステムです。

これはホテルですけども、ホテルも日本だといろんな付属品が付いてきますね。あれはほとんどのホテルで安全のため、使わなくても廃棄しちゃうんですね。ドイツの場合は、ほとんどのホテル、普通のホテルに泊まった時も、エコロジカルじゃない普通のホテルですよ。そこに止まった時も、石けんと、これはシャワーキャップですが、その他の物はフロントに行けばくれるけれども、部屋には置いてないんですね。ごみが出ない工夫がされています。

これはペットボトルですが、ちょっと分厚いんです。ちょっと見た目、分厚そうな感じが分かりますかね。これもリサイクルで回すんじゃなくて、リユースで回しています。これをもう一度洗って、中身だけ詰めてもう一回売るんですが、このようにペットボトルもキズキズです。何ら気にしない。多分日本人も気にしないと思うんですよ。企業の方は、日本人は清潔だから、清潔だからと言うんですけどね。気にしますか？

(参加者4)

気にする人が多いんじゃないかなと思いますね。やっぱり会話していて、「これは嫌やわ」とか、そういうふうに聞くと。だから、その説明をしないと分からない。

(広田)

そうですね。やっぱりこれと並んできれいなものが隣にあったら、きれいなほうを取られるかも知れませんね。ドイツの場合は、どれもキズキズだから、この傷が全然目立たない。私がこの写真を撮っていても、「何撮っているの？」みたいな顔で見られましたけれども。そうですね、確かに並んでいたらそうかも知れないですね。そして、情報の提供が必要かも知れないですね。こうやって何回も使うことが環境にいいですよという情報を提供していくのが大事かも知れません。

こうやってペットボトルもこういう回収のコンテナで運んでいました。瓶よりも軽いので、輸送のコストが少ないということで、ペットボトルも最近増えてきたということですね。

日本の企業はそうやって、ヨーロッパから見ても突っ込みどころが結構満載です。どこの企業も結構無駄な包装をしてしまっているの、突っ込みどころが満載ですけども、今日のこの後半で、実際に企業にどんな声を届けていこうか、皆さんから意見を募っていききたいと思います。

私たちブログミーツカンパニーでいろんなところから提案を募っていますと、本当に突拍子もない提案からいろんな提案があがってきますけれども、皆さんから今日気付いたこととか、実際、私たちがブログミーツカンパニーのリストに加えたいと思いますので、企業に届けたい声を募っていききたいと思いますが、いかがでしょうか。どんなことでもいいんですけれども。

(参加者7)

やっぱりスーパーで売られている野菜が必要以上にラップでくるんでありますよね。あれは私はいつもバラのほうを選ぶんですが、バラのほうが新鮮なような気がして選んでいきます。包むのはかえって、企業さん側にもマイナスなんじゃないかなと思うんです。

(広田)

なるほど。裸売りということですね。

(参加者7)

そうです。そのほうが「新鮮」と思います。

(広田)

他に、企業に届けたい声、ありますでしょうか。

(参加者8)

私は、三重県の北勢地方のほうから来ましたが、今日ここへ来る時にちょっとスーパーに寄って、こういう買い物をしてきました。私は各市町で容器法に基づく分別に一生懸命取り組んでいます。その中で、この一つの商品のラップの上に紙のシールが5枚貼ってあります。そうすると、このラップはせっかく容器法に基づくプラスチックで分別できるのに、このラップにシールが貼ってあることによって、これ、可燃ごみに回っていつちゃうんですね。そうすると、可燃ごみに出している市町村は、容器法に入れていただいたほうがコストが安くあがるんですが、これが一般の市民の人は、このシールを剥がすことができない。できれば同じビニール系、プラスチック系のシールにしてもらえれば、そのまま容器法のごみとして処理できると思うんです。これをスーパーマーケット協会さんにぜひとも話をさせていただけるとありがたいかなと思います。

それともう1点、これはおたくのブログにも出ていましたが、レシート、これも要る人、要らない人があるから、要る人にだけ。これが結構ポケットの中にごみとして入っていきますので、これも何か方法がないのかなと思います。

(広田)

ありがとうございます。他にはありますでしょうか。企業に届けたい意見、声。どんなことでも結構です。些細なことでも。

(参加者9)

容器の件なんですけど、一番嫌なのは、歯磨き粉なんて結構完璧なチューブになっていますが、それがまた包装されてますでしょ。それからハムとかだと、きちっと締めたハムをトレイに乗せてラップにしてありますよね。そのへんの二重三重というのがあると思いますし、私がずっと思っているのは、行政が広報したり、何かの冊子を作ったその宣伝のために、鉛筆とかノートとかメジャーとかを配ったりするんですが、それって結構やたらめったらイベントなんかで配るとごみなんですよね。

行政が、例えば敬老会の件で、「おたくら、こんなにごみ問題をやっていて、ごみを配るんですか」と言ったことがあるんですけど、袋に詰めた飴を箱に入れて包装して、さらに茶紙で包んで郵送してきたことがあるんですけど、それはもう今はないと思いますが、まだまだやっぱりサービス精神というのがごみに結び付いて、企業でも行政でも我々個人でもそうなんですけど、本当に人のためになることとはどういうことなのかということをお伝えしないと、あなたのおっしゃることと一緒に伝えていかないといけないと私も反省していますが、完璧なものに対するもう一つの包装というのを止められる方法は何かないか、本当

に考えていきたいと思っています。

(広田)

そうですね。粗品、プレゼント、銀行とかも多いですね。あと、町で配っているポケットティッシュも多いですね。こうしたところを、例えば銀行の粗品の件はブログミーツにも初期の頃から上がってしまっていて、うちは洗剤を使わないのに洗剤が配られてしまうと。あれを配るぐらいなら利子を上げて欲しいという提案がありましたけど、配るならごみにならないもの、使ったらより環境にいいもの、例えば三重県の間伐材とかそのポストカードセットなどいいかも知れないですけど、せつかく配るなら環境にいいものというふう

にこれから変わっていくといいですね。

(参加者9)

環境に悪いものはサービスで配らない。アルミ箔とサランラップと洗剤等もらうと、何でこんなのくれるのかなと、頭にきました。

(広田)

これも結構人気の提案になりそうですね。他にもありますでしょうか。

(参加者3)

例えば洗剤とか柔軟剤とか、液体なんか特に多いですが、いわゆるボトルの入れ物の次には詰め替え用の薄い袋のようなものに入れて販売されていますが、多分かさばらないよ

うにという目的と、容り法に基づいてのそのもの自体の使用量を減らしている目的でそういう形にされていると思うんですが、よく見ると、これはメーカーの問題だけなのか、流通の問題も絡むのか分からないんですが、安いなあと

思って詰め替え用を買うと、容量が少ない。そうしたら、例えば本体があっ

て、298 円取られているものが、1割か2割安くて、20 円 30 円安い値段で売られていたとしても、結局、高いものを買ってしまう場合がある。というのは、ついつい分からないんですが、20 円 30 円安いから買うので、詰め替え用だから買うんですが、よく見たらい

1割2割減らされているものが詰め替えになっているので、結局のところ、安い買い物をしているように思わない。そういうことを買い物に行く

とよく思います。

(広田)

じゃ、せつかく環境負荷を減らそうと思って詰め替えを選んだ人が損しちゃうような結果になるんですね。

(参加者3)

そうですね。あんまり得していない。だから、つついもうハードな入れ物に入った本体が付いているものを購入したりする場合があります。

それともう一つ、先ほどお話したように、ヨーグルトをよく食べるんですが、メーカーによっては紙の容器に入れてくれているところが、いわゆる牛乳パックと同じ容器に入れていらっしゃるところがあるんですが、そうでないところが多い。

(広田)

そうですね。あれ、プラが多くなってきていますよね。

(参加者3)

それと、さっきも言ったように、粉シュガーは絶対使わないんですけど、ある特定のメーカーのヨーグルトが食べたいのに、そのヨーグルトには必ず粉シュガーが付いてきます。粉シュガーが付いていないメーカーさんのヨーグルトは食べたくないんです。おいしくないから。どれでも粉シュガーが付けていない状況にして欲しいなと思います。

(広田)

なるほど。ありがとうございます。

他にはありますか。どんな些細なことでもいいですが。

(参加者10)

先ほど、食品トレイの話がありましたが、先ほどお見せいただいた食品トレイというのは木目調になっていて、食品トレイには白いのがあったり、そういう木目調のものがあつたりするんですが、よくスーパーの店頭で回収してくれるトレイは白いトレイが多いと思うんですね。その木目調のトレイは、多分リサイクルしにくいんだと思うんですが、機能としてはまったく同じなので、できればリサイクルしやすいものを使ってもらいたいかなと。

以前、テレビ番組で見たんですが、同じ商品を白いトレイに乗せているのと、木目調のトレイに乗せているのとで売れ行きはどうかという実験をした時に、全然変わらないというふうな結果が出たりしたので、できるだけそういうリサイクルしやすいものを使ってもらいたいかなと思います。

(広田)

中身で勝負して欲しいですね。木目調でも売れ行きは変わらなかったということですね。

(参加者9)

何度も言いますが、ビンのシール剥がしをしようとするんですが、いいメーカーのシールは簡単に取れるんですが、例えば地産地消で売っている、そのへんの100円で売っているおばさんたちの、どこどこスーパーとかどこどこ店が協力して鈴木何々子さんの野菜ですよと張ってあるシールは全然剥がれないので、一番考えなければいけない人たちが一番てこずるものを使っているんですよね。だからそのシール関係が全部剥がせるように何とかならないかなと、いつも剥がしながら思っています。

(広田)

そうですね。さっきもご意見をくださいましたけれども、シールがなかなかリサイクルする時にもネックになってしまいますよね。分別しやすい、剥がれやすいシールも結構原料高は変わらないものが出てきていますので、これは提案すれば、もしかしたら気付いていなかっただけで、何も悪気はないのかも知れませんね。

他にはありますでしょうか。

(参加者11)

牛乳パックなんですけど、解体する時に、ハサミを入れる時にすごく力が要るので、もう少し解体しやすいもので、どうしても液体を入れるものなのでいろいろあると思うんですが、もう少しこちらも解体しやすい構造になっていけば、もっと協力する人もいらっしゃるのではないかなというのがあります。

それともう一つ、先ほどシャンプーとかの詰め替え容器のことを言っていたいていましたが、私はあの詰め替え容器自体もプラごみになるので、すごく嫌なんです。でも、仕方ないので買っているんですが、これは難しい話だと思うんですが、例えば今たくさん種類があるので全部はできないと思うんですが、売れ筋の商品に限ってでも、企業さんが、例えば大きなスーパーや大手のドラッグストアさんの中に、タンクで水を売っているように、自分たちは容器を持って行って、それを満タンにしたら何百円ですみたいなことにすると、みんなが容器を持ってお水を買うに行くようにしたら、その大きな容器だけで済むんじゃないかなというふうに思うんです。ただ、それは何百も種類がありますので全部は無理だと思いますが、売れ筋の商品だけでも大手の企業さんがされればいいかなと思いました。

(広田)

それでリピーターになるかも知れませんね。これ、液体の量り売りは難しいといわれますが、ちょっと前、今も醤油とかを量り売りしているお店が細々と残っていますが、ちょ

っと前はそれが常識でしたよね。液体を量り買ったことがある、醤油を量り買ったことがあるという人はいらっしゃいますか？

ちょっと伺っていいでしょうか。いつ頃でしょうか？

(参加者 12)

子どもの頃です。お使いで醤油を買いに行きました。

(広田)

お使いで醤油、素敵ですねえ。どんな形で？

(参加者 12)

例えば1升ビンを持って行ったりとか、そこへ杓で量って入れてくれるんです。

(広田)

それは衛生面とかは気にしていましたか？

(参加者 12)

いえいえ、特に。本当に近所のおばちゃんがやっているお店でしたので。

(広田)

もうその頃は、食中毒とかが万が一起こっても、誰もお店を訴訟にかけるようなことはきつとなかった社会なんじゃないかなと思いますね。もう一度そういうところを自分の自己責任でやりますということで、いいからこの容器に入れてというところを、消費者のほうから声が上がると、企業はとってもやりやすいと思いますね。

私は、実は今、さっきの映像にもありましたが、名古屋市の千種区のスーパーに液体を量り売りして欲しいということで持ちかけているんです。そういうシャンプーとか化粧水、あと味噌、お酒、醤油、味噌、そういう生活必需品でルーティン、いつも要るものは量り売りして、その代わりここにいつも買いに来るからということで、お話を持って行ってますけど、やっぱり一番のネックが衛生面と言われるんですね。それをお客様が理解していただければいいですけど、そこがなかなか理解されないと思いますということで、尻込みしてしまうんですね。

でも、今、お水をスーパーで入れているじゃないですか。ありますよね。あれは自分で最初だけ容器を買って、何回も持ち込んで入れますよね。あれは実は生で飲んじゃいけないと言うか、生で飲んでいいですとは書いてないということで逃げ道を作っているらしいんです。それがもしコカコーラになると、そのまま飲まれて何かあった場合に困るということで、ちょっとハードルが高いそうなんですけど、今そこを何とかファミリーレストラン

に行った時にフリードリンクコーナーがあるみたいに、ああいうコーナーをスーパーの中やコンビニの中に置いて、自分が持ち込んだ自分のお気に入りのボトルに要る分だけ買うことができるというスタイルを始めましょうということで進めています。これは実は関西にもそういう動きがありまして、コカコーラとセブンイレブンでそういう話が上がっているみたいですが、なかなか消費者が応援してくれないと、企業さんは難しいですね。

ありがとうございます。他にもありますでしょうか。どんなことでも結構ですが。

(参加者9)

お肉屋さんで、トレイは要らないから、ビニール袋でいいので、ビニール袋で売ってくださいと。そうしたらお店屋さんは、「それは許されません。絶対トレイでしか売れないんです」と言っていて、それでも「絶対いいですから」と言っても、「いえ、それは上から怒られますから」と言われて、他の店でもそういうふうにして買うんですが、スーパー関係は結構厳しいんですね。上が大きいから。そのへん、トレイを少なくするために袋売りでも衛生上、食品用の袋と普通の袋で基準があって、食品用の袋をメーカーさんで作るあれが違うんですが、それはドイツはもっと緩やかなのか、日本は厳しすぎるのか。そのトレイを拒否できる売り体制というのを、どの袋ならいいのか、例えば持ち込みのお皿を持っていたらそれに乗せてくれるのかということと、お肉なんか量り売りしても汁はこぼれないし、多分いいと思うんですね。そのへん、お願いしたいと思います。

(広田)

このお肉の件も先ほどの千種区のスーパーに持ちかけましたところ、逆に加熱前の商品は売りやすいですって。家で加熱する商品は、自分の容器を持ってきていただいても売りやすいそうです。逆にお惣菜とか、そのまま食べていただくものはなかなか勇気が要りますので、ラップを敷かせてくださいとか、そういう形みたいです。ですから、案外この生肉というのは行けるかも知れないですね。

千種区のスーパーでは、容器を持ち込んでくだされば入れますという、「持ち込み容器歓迎」というポスターをお肉の対面販売のところに張ってくれるという話で今進んでいますけれども、お肉など、毎日買うような食品はとてにかさみますから、必要だと思います。

他にはありませんでしょうか。

(参加者13)

先ほど出ていましたダイレクトメールと似ているんですが、化粧品とかを買いに行くと、カバンを要らないとポイントを付けてくれるサービスをしている企業さんもあるんですが、

それで「要りません」と言って、袋を断るんですが、そうすると新商品、こういうのが新しくファンデーションが出ましたよとか、そういうチラシ紙をいっぱいもらうんですよ。結局は一緒じゃないかなと思って。せっかくそうやって人とコミュニケーションして買っているんで、その企業さんでパネルを容易してもらって、そこでこういう商品が出たんですけどと言ってもらると、もっと減らせるかなと思います。

(広田)

いいですね。ドイツで見かけたんですが、昔、駄菓子屋に行くと、大きなビンに飴がゴロゴロ入っていましたよね。ああいうスタイルで化粧品が売られているお店がありました。化粧品というのは特にパッケージがすごく大きいですよ。あれは目に見えない効果を伝えなきゃいけないから、どうしても宣伝部分が大きいんですね。ドイツで見かけたそのお店は、その宣伝はデカデカとポスターでして、その下に駄菓子屋の飴みたいに大きな箱が置いてあって、そこから商品だけ買えるんです。そして必要な人だけパンフレットがもらえるというスタイルで売っていましたが、こういうアピールが必要な商品も、もしどうしても紙にする場合はエコロジカルなペーパーにして、そうじゃなくていいものはパネルにして使い捨てにしない方法でやっていくのはとても有効ですよ。ありがとうございます。

他にはよろしいでしょうか。

(参加者 14)

ダイレクトメール自体あまり要らないというのはあるんですが、子どもの教材のお知らせなど、外側がビニールの封筒に入っていて、中にはホッチキスで留めた冊子も入っているし、それから紙も入っているということで、要らないものをいちいち開いて分別しなければいけないという手間があるので、そういうところも考えて欲しいと思います。

(広田)

それは学校から配られる教材ですか？

(参加者 14)

違います。学習大手企業の教材です。

(広田)

この紙にビニールが貼られたコート紙と言いますが、これも資源化する時に大変問題になっていると言いますね。日本は特に普通の文庫本を買っても、テカテカのコート紙で、多少雨に濡れても大丈夫なカバーが付いてきてしまいますが、結構外国を見ていると、カ

バーはなくて、中の表紙にタイトルが書いてあったりして、それでまったく問題なかったりしますね。これも大事だと思います。

これぐらいでしょうか。時間もそろそろ来ましたので、皆さんから上がった提案は、ブログミーツのほうのリストにも加えさせていただきたいと思いますが、今までブログミーツにすでに上がっているものに追加するものもありますので、もしよかったら見てください。

じゃ、この中で実際に企業に電話してみようかな、声を届けてみようかな、次に買いに行った時にそうやって一言言ってみようかなという気持ちになったという人はどれぐらいいらっしゃるんですか？すごいですねえ。どんな企業に届けようと思いましたか？

(参加者 15)

やっぱり身近なところですね。相談しやすい、そういうところからスタートしてみたいなというように思っています。

(広田)

そうですね。ありがとうございます。私も身近な、よく行く飲み屋のオーナーがもう顔馴染みなので、「割り箸を国産の箸に変えない？」ということで持ちかけたら、「今まで全然気付かなかった。いいよ、変えるよ」ということですぐ変わったケースがあったんですが、案外伝えてみるとすぐ変わるケースが多いと思います。ぜひ皆さんも、今日上がった提案からピックアップしていただいてもいいですし、自分で買った製品で思いつくことがありましたら、企業のほうに届けていただけたら、もしかしたらそれが1トン2トンのごみ減量につながるかも知れません。そうやって楽しい会話が生まれていくかも知れませんので、ぜひ声を届けていっていただけたらと思います。

今日はありがとうございました。

それでは、質問を受け付けたいと思いますが、最初からブログミーツカンパニーやドイツのことなど、どんなことでもいいです。もし質問がありましたらお願いします。

(質問者 1)

納豆のメーカーと商品名を教えてください。

(広田)

メーカーは茨城の菊水食品の『頑固一徹』という商品です。これは90グラムで150円ぐらいです。納豆というのは、プラ容器の場合、蒸し上がった豆を入れて、そのあとその中で納豆菌が繁殖して納豆になるそうです。だから納豆になる過程でそこにプラスチックの

匂いが付いてしまっているそうなんです。厳密に言うと。それを経木と言って間伐材でくるむことで木の香りが豆に付いておいしくなるんだということで、経木にくるまれた納豆ということで、90グラム150円ぐらいで売り出しています。これを共同購入でたくさん買うと送料もタダで安くなりますので、もしよろしければホームページのほうでもアピールしていますので、ご覧ください。

ありがとうございます。他にご質問はありますか。

(質問者2)

先ほどからダイレクトメールの話がありましたが、私は、ダイレクトメールが郵送で来た場合は、返還先が書いてあるものについては、ほとんど「受け取り辞退」で返します。それはもうずっとやって来たので、随分ごみが減りました。ただ、宅配便で来た時にどのように返したらいいのか教えてください。

(広田)

宅配便で来たものを返すという人はいますか？郵送の場合は、拒否するとお金はかからないんですか？

(質問者2)

はい。私の場合、封筒の表に「受け取り辞退 送付先にお返してください」と書いて、署名して返していました。

(広田)

署名してポストに入れればいいんですか。

(質問者2)

はい。だから、ほとんど来なくなりました。

(広田)

それは皆さん、いいことを聞いちゃいましたね。郵便のダイレクトメールは拒否できる。

(参加者9)

宅配便も拒否できますよ。受け取る時に名前を見て、これは受け取りませんと言えば、「分かりました」と、持って帰られます。ポストに入っているのはダメですけど、受け取る時に、「受け取れません」と宅配屋さんに改めて書いておけば何とかなるんじゃないかと思います。今度その宅配屋さんに言うておいて、「この間入れられたけど、これは困ります」と言うか、返すという方法はあります。

(広田)

持ってきた方に「受け取り拒否」と伝えるんですね。

私も、母が旅行が好きで、いろんなところで名前を書いちゃうものですから、パンフレットがどっさり送られてくるんですね。送られてくるとすぐに電話して「もう要りませんから」と言うんですが、2人でバカみたいにググググそんなことをしているんですが。ありがとうございます。

他に質問などありますでしょうか。

よろしいですか。

ありがとうございます。それではこんなところで。

今までごみの問題、ここまで埋立量も日本は着実に減らしてきて、可燃ごみもだんだん生ごみのコンポストなど、広がってきまして、三重のほうでもたくさん取り組みがされているのを私も聞いていますが、ここからもう一歩行って、企業と一緒にごみを減らしていくというところを楽しく取り組んでいけたら、もっと日本らしい、買い物をする時に会話があって、昔の商店街みたいに「久しぶりだね。最近どうしてた？」なんて、温かみのある社会にもう一回戻っていくように、ごみだけのことがこういう社会を作って、資源の問題、地球温暖化の問題、そういったことを減らしていくことにもつながって、地球の裏側にも私たちが影響を及ぼしているということを実感して、皆さんと一緒に取り組んでいけたらと思います。

今日はたくさんお集まりいただいて、いいアイデアをたくさんいただいて、ありがとうございました。ブログミーツカンパニーのほうに反映して、これからも活動のほうを頑張っていきたいと思っています。

それと、このブログミーツカンパニーは全国版でやっているんですが、この秋ぐらいから愛知版を作ることになりました。これは、今までは提案を一方向的に企業にぶつける形だったんですが、愛知版、地域版を作って、この場合は企業、例えば名古屋の山本屋という有名なうどん屋さんがありますが、そこの社長にまずは最初に話し合いの場を設けて、何かエコなことをやりませんか。例えば国産小麦を2割使うことでもいいし、割り箸を変えることでもいいし、何でもいいけど何かやりませんかという形で、対話から始めるエコロジカルな活動をしていけたらなと思っています。そういうローカル版として地元密着のものを立ち上げていきたいと思っています。

その三重県版をやってくれる人がいないかなと思っていますが、また興味のある方がいらっしゃいましたら、ご連絡いただけたら嬉しいです。

しかも、そういう提案を、名古屋の場合は量り売りコーナー設置プロジェクト by 中部リサイクルとか、そういった形でNGOの方がプロジェクトを立ち上げる形でコラボレーションもしていこうと思っていますので、そういうスタイルでも愛知だけでなく広げたいと思っています。ぜひこれからもこの出会いを縁としまして、どうぞよろしく願いします。

今日はどうもありがとうございました。

(終)

ごみゼロ県民セミナー事例発表・意見交換

(司会)

それでは、お時間がまいりましたので、次のテーマであります「レジ袋削減の歩み」についてのご紹介をいただきます。削減のきっかけとなるレジ袋の有料化は、県内では最初に平成19年9月21日から伊勢市で始まりしました。本日は有料化による変化を導入から約10ヶ月経過しました行政の立場からご紹介いただきたいと思います。

それでは、伊勢市環境部資源循環課、課長、阪本保夫様、よろしく申し上げます。

(阪本)

皆さん、改めまして、こんにちは。ご紹介をいただきました、伊勢市の資源循環課の阪本と申します。

ご承知のように、伊勢市は昨年9月21日から、市内スーパー全店が一斉、それから商店街が10商店街ありますが、ここも有料化ではないんですが、レジ袋の削減に取り組んでいただいている、協定も結んだ、こういったことで私ども「伊勢モデル」として全国的にも先駆けたということで、今日は伊勢市での取り組みの経過等もお話をさせていただきます。

前の画面を見ていただきたいと思います。なぜ伊勢市で有料化が始まったのかということなんですが、私どもの市長、森下隆生と言うんですが、市長のマニフェスト、『伊勢市明日のプラン』というのがございます。この中で、市民とか各種団体、行政が連携していろんな役割を分担しながら、目的を達成する地域社会を作りたい、こういったことを打ち出しております。

その中で特に三つのキーワードがあります。「3K（環境・健康・観光）」、昔の3Kと言うと、臭い・汚い、そういったイメージでしたが、観光・健康・環境、特に環境については環境と共生できる町ということをマニフェストで打ち出しております。

そこで、昨年4月、市長から伊勢市でもレジ袋の削減に取り組んでいかないか、取り組みなさいといった指示を私どもはいただきました。それで、伊勢市については、実は土壌がございました。平成13年に、当時、レジ袋削減を始めて、県下的にも始まっておったと思いますが、その時に伊勢市で、旧の合併前の伊勢市の世帯なんですが、そこへ市が作成しましたオリジナルのマイバッグを全戸配布いたしました。

今日、私、持参しておりますが、こういった格好でございます。レジかごにそっくり入るような格好で作っております。中にはちょっと保冷機能を持たせております。こういったマイバッグ、それとここには載せておりませんが、小さい携帯用のマイバッグ、ご希望

を取りましてどちらかを一つ配布ということで配らせていただきました。これが平成 13 年でございます。

実はこれの作成にあたりまして、メーカーのご協力をいただきまして試作品を作っていて、いろんなイベントなどで展示して、人気投票をしました。その結果、こういった格好が決まってきました、これを 40,000 個作成して、当時 37,000 ほど世帯がございましたが、そこへ無料で配りました。3,500 万ほど予算をかけたわけでございます。

それともう一つ、可燃ごみにつきましては指定袋の制度を導入していますし、プラスチックの容器包装、それからペットボトルなんかにつきましても、要するにレジの袋で出せない、レジ袋を使ってごみを出せないシステムを作っております。ちょっと見にくいかも分かりませんが、青い網の袋でございます。これへペットボトルをそれぞれ入れていただいて、これを市が回収すると。容器包装についてはこれがオレンジの袋になっています。こういったレジ袋で出せない環境があったということ。

それからもう一つ、マイバッグを 13 年 12 月に配布したんですが、その配布の効果でございます。これは伊勢が本部のスーパーさんでぎゅーとらさんと言うんですが、ここでマイバッグ配布後のレジ袋辞退率をデータ的に取っていただいておりました。だいたい 2 割から 3 割程度でした。もうこれが限界だなと。こうなったら事業者の協力も不可欠だなということございました。

そこで、レジ袋を減らしていこう、どういった体制を作ろうかということで、まず組織づくりをやりました。基本的な考えとして前にちょっと書いてありますが、地球温暖化防止と循環型社会構築に向けた環境配慮を目指して、地域レベルで削減していこう、マイバッグ持参運動をしていこうと。こういった基本的な考えを持ちました。

それともう一つ、市民・事業者・行政が連携して、協力して取り組んでいこうと。こういったことで、実は前に「平成 19 年 6 月」と書いてありますが、この前の 5 月に準備会をやりました。そして、6 月に「ええやんか！マイバッグ（レジ袋有料化）」検討会、こういった組織を立ち上げて、取り組みを開始したわけでございます。

6 月 1 日だったと思うんですが、事業者の方、その当時の市内のスーパーさん、すべての事業者さん、それから市民団体の方にも入っていただく中で、まず名前を決めるのに 1 時間ちょっとかかりました。何でもめたかと言うと、「有料化」ということです。事業者さんは、「有料化」という言葉を使いたくない。あくまでも無料配布を止めるんだというスタンスです。市民団体の方は、そんな無料配布を止めるとか、そんなのは分かりにくい。「有

料化」というのを打ち出さないと、これ以上レジ袋は減らないよと。こういったスタンスでした。お互いにすごく議論する中で、括弧書きで入れることになります。ただ、今考えてみますと、この1時間ちょっとかかった議論が良かったのかなと。その後お互いに言いたいことを言うような、そんな雰囲気できたと思っております。

そのメンバーなんですが、市民団体、これは今、前に書いてあります五つ、現在はもう1団体加わっております。それから事業者として商店街の連合会が書いてありますが、10の商店街の連合会組織がございまして、そこからも参加していただいております。それから市内に店舗を構えておる全部のスーパーの事業者さん、それから協力団体として商工会議所、それから県の地球温暖化防止活動推進センター、それから伊勢は商店街でポイントカード制をやっております、そこの協同組合、ここにも参加をしていただきまして、行政として県にも入っていただいております。こういったメンバーでございます。

体制づくりの③として役割なんですが、これは市とか検討会がPR活動をしていこう、市民団体の方も啓発等をやっていただく、事業者は目標設定をしてレジ袋削減に努める、こういったイメージでございますし、検討会が全面的にバックアップして、事業者さんから、これは今もそうなんですが、毎月どれぐらいのレジ袋辞退率があったのか、実績報告をいただいております。これを検討会として評価して公表もしております。

これは検討会の開催状況なんですが、特にこの赤で囲ってある部分、原則月1回、夜に開催しようということになっていたんですが、実はもう早い段階から、できたら9月に有料化を開始しようじゃないかという目途を立てました。それに向ってちょっとハードなスケジュールで検討会を開催いたしました。困難を経て、8月24日、ここにキャンペーンとか協定についてとか書いてありますが、このあたりがもう最終の細かい詰めでした。そして、昨年9月21日から有料化が開始になったわけです。

啓発の関係ですが、実はもう検討会を立ち上げるということを決めてから、すぐにまずキックオフイベントをやろうかということで、6月17日に「レジ袋大幅削減・マイバッグ持参イベント」として、伊勢市の生涯学習センター、伊勢トピアと言うんですが、ここでイベントをやりました。これは小学校の子どもたちに歌を歌っていただいたり、三重大学の朴先生とイオングループの環境の責任者であります上山さんに講演をしていただきました。それから私どもの市長も入って、小学校の代表の子らも入った中でシンポジウムをやっていただきました。

それから、これも啓発なんですが、市内のスーパー、当時21店舗なんですが、これが8

月4日から9月8日の毎週土・日ごとにキャンペーンをやりました。これで各店舗2回ずつキャンペーンをやりました。9月21日から有料化になりますよとか、マイバッグ持参でお買い物をお願いしますとか、そういった呼びかけと、それから「賛同者へのシール貼付」と書いてあります。ちょっと分かりにくいんですが、この中で二つに分けて、今やっていることと今後やること、四つぐらい項目をわけまして、丸いシールを貼っていただきました。例えば現在マイバッグで買い物をしているという人だったら、こちらの、今もやっているし今後もやるよとか、そういったことでシールを貼っていただいて啓発した。こういった格好になりました。

私どもの市長も先頭に立って、すべての店舗ではございませんが、七つの事業者さんの代表的な店舗に行ってキャンペーンに回っていただきましたし、県からもキャンペーンに参加をいただきました。

それから直前のキャンペーン、これは9月15、16日の土・日にやったんですが、これでもう一回ずつ同じようなキャンペーンをやりました。合計1店舗3回のキャンペーンで、9月21日からの有料化開始の周知をしました。

何でこんなにやったかと言うと、事業者さんの中にこういった話があると。この有料化を知らずに買いに来た人から多分苦情を言われるだろうと。知っていて買い物に来て、有料でレジ袋を買っていただくのは、これは苦情は多分ないだろうと。だから、せいぜい知らして欲しいといったお話がありました。ですので、各店舗3回やったわけです。

それから当日なんですけど、伊勢市に代表的なJRと近鉄の駅がございます。JRの駅については、駅前・駅裏がございます。近鉄の駅は一つですので、3ヶ所で市長、副市長を先頭にこの時も「今日から始まりますよ」というキャンペーンをやりました。

この時のこの携帯用のマイバッグ、これを配布したんですが、実は伊勢市に神都ライオンズクラブという組織がございます、ここがちょうど昨年が創立25周年記念で、記念の何か事業をやりたいということでご相談もあり、私どももちょうどこういったことでご協力いただけないかなということで、携帯用のマイバッグをもらいました。それから今年の1月、成人式があったんですが、この時伊勢市で1,400名ぐらいの新成人が誕生したんですが、その成人式に、それまでは封筒とか紙袋に入れて記念品をお渡ししていたようですが、これもこの神都ライオンズクラブさんからもうちょっと大きな、確か1個4,500円だったと思うんですが、それぐらいのマイバッグを2,000個いただきまして、新成人の方に記念品を袋じやなしにマイバッグを渡して、これを使ってお買い物に行ってくださいよと

いう、そういった取り組みもしました。

それから、伊勢市の協定なんです、ちょっと分かりにくいんですが、これは京都が先行してやっておりました、そこの例も参考にさせていただきながら、協定書を作って協定を交わしたわけなんです、すべてサイン、普通、行政ですと、名前を打って印鑑を付くなり、そういった手法が多いんですが、すべて直筆のサインでいただきました。一番上の事業者さんの代表取締役社長さん、一番下は市長なんですが、検討会に参加していただいておりますそれぞれの組織の代表の方にご署名をいただきました。

協定は昨年の9月11日に市役所で協定式をやりました。すべての事業者さん、それから商店街さん、全部寄っていただきました。これは非常に大きくマスコミに取り上げられまして、これの効果は多分お金に換算したら、それこそ何百万になるのかなと思いましたが、主要なテレビだけで5社、新聞社はほとんどすべて、こういったことで伊勢が多分これは名古屋よりも先行してやるということで、非常にPR効果がございました。

協定の内容なんです、これは緑の部分が事業所でございます。無料配布を止めますよ、それから目標何%を削減します、それからレジ袋の収益金活用、これについてはすべての事業者さんに収益金が出た場合は、環境保全活動などに還元する、または使用する、そういった表現をいただいております。それから、活動の内容は公表する、こういった内容になっております。

持参率の目標なんです、イオングループでジャスコが伊勢に店舗があるんですが、ここが80%削減すると。これはもう京都で実績がございましたので、80%は自信があって書かれたんだと思います。他のスーパーさんは初めてでしたので、それぞれ50%以上という目標を掲げてもらっております。

これは伊勢市内のレジ袋の有料化の概要なんです、すべての事業者さん、すべての店舗で大きな袋、通常使われている袋は1枚5円です。これは市が決めたわけでもございません。事業者さんが自主的に決めていただいた。ただ、一部の店舗で、小さい袋とか中の袋は2円、3円という設定をされておるスーパーさんもあります。現在、小袋についてはもう弁当専用にして、弁当などを渡すのに専用にして、無料で配布させて欲しいといった話がありまして、これも検討会の中で出てきた話なんです、他の事業者さんも全部納得されまして、現在は多分この2円の袋はありません。

行政の立場ですので、ちょっとお金の話をさせていただきますと、この事業にかかったお金、19年度なんです、約96万円ほどかかりました。宣伝の材料とか講演会、それか

らポスター、それからのぼりも作りました。そんな諸々で96万円ほどかかりました。これには私どもの職員の人件費は入っておりません。ただ、これについてはありがたいことに県のモデル事業という位置付けで、半額補助金をいただきました。ありがとうございます。

レジ袋有料化後の効果なんですが、9月からでしたので、開始直後88.8%、これはすべての店舗の平均と思ってください。一番直近の数字、6月の数字なんですが、91.3%レジ袋が辞退されております。

今後の展開なんですが、実はドラッグストアさんに声をかけて、何とか有料化できないかといったこととお話をさせていただいております。ホームセンターへも協力依頼をしておりますし、新規の参入業者につきましては、今年の5月1日からバローというお店が開店から有料化をやってもらっております。それと収益金の活用方法も今、検討しております。

最後になりますが、レジ袋の有料化は目的ではございません。手段で、本来の目的は、冒頭にお話しましたように、環境配慮、循環型社会の形成だということです。誰でもできる身近な取り組みとしてレジ袋削減が一つあったんだという理解をしております。

伊勢市のご紹介を終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

(司会)

阪本様、大変ありがとうございました。

それでは、続きまして今月の7月1日から全国で初めて隣接する両市である伊賀市と名張市で同時に有料化がされました。その状況につきまして市民の立場から伊賀環境問題研究会代表の立田彰子様にご発表をお願いします。

では、立田様、よろしく申し上げます。

(立田)

皆様、こんにちは。今、ご紹介いただきました伊賀環境問題研究会の立田と申します。よろしくお願いいいたします。

今日は、私たちの小さなグループの活動の紹介と、この何年間かのごみ減量に取り組んでやってきたこと、それから今回のレジ袋有料化ということの事例を発表させていただきます。

私たちのグループは、できて今年で12年になるんですが、発足の当時、身近な問題、できることから始めようという理念で歩んできています。

講師を招いての講演会の開催とか、それから地域に出向いての、これが幼稚園とか保育

所などに出向いての環境の寸劇などを行っています。あと、地域の環境などのイベントにも参加してきました。月1回の例会をもって歩んできています。最近ではメンバーが亡くなったりとか家庭の事情で参加できなくなったりして、活動の人数は減っております。

この5年間ぐらいはごみ減量に取り組んできました。これが衣装ケースから始まりまして、ごみを減量する学習会をずっと重ねてきています。生ごみを堆肥化するにあたっては、いろんな方法があるわけなんですけど、五つぐらいはありまして、段ボールでやるのだけ、まだちょっと私たちのグループではやっていないんですが、その中でいろいろやりながら実験を重ねてきました。

どれもやってみたんですが、その結果、生ごみを資源ととらえて別に回収して、堆肥を作り循環させる方法が一番簡単でごみを減らし、循環させるよい方法でした。それがこの皆さんご存知の方もいらっしゃると思いますが、バケツを使いましてのサンドイッチ方式でした。この提案を県が取り上げてくださりまして、共同で実験をいたしました。ごみは減るし、費用はかからないし、とても良い方法だったのです。

勿論、協力してくれた企業がありましたのでできたことなんです。それをやっている間にも、モデルケースとして取り上げて欲しいと行政に働きかけましたけれども、初めてのことだとか、費用がかかるとかで取り上げてもらえませんでした。現在、他の市町村でうまく行っているところは行政主導でやっています。残念でしたが、昨年6月でこれは撤去いたしました。

昨年、今年の活動をどうしようかと言っている時に、伊勢市のマイバッグ運動のことを知りました。その頃に、県民局で毎年、伊賀地域で交流会をしてくださっている担当者から相談を受けました。紀宝町、それから鳥羽市さんとの交流などを毎年していただいてありがたかったのですが、私たちとしては、「もう少し発展性があってもいいのになあ。」と思っていました。「もっと前向きに考えられる交流会をしていただけるといいのだけれど。それと、するのなら年度末でなく10月頃にしたいと考えているんですが。」と、こちらの勝手なことを申し上げていました。

担当者の方からは、今年はどうなことをする計画でいますかと聞かれたものですから、伊勢市のマイバッグ運動のことを話しました。それで伊賀でもシンポジウムをしようということになって行きました。

そして、昨年10月に名張市役所の大会議室においてシンポジウムを開催しました。パネラーとしてイオンの上山さんと伊勢市の天野さんの参加依頼を県にお願いし、私たちは名

張市長にパネラーとして出ていただくためにそのお願いに何回か話をしに行きました。また、事業者はこのシンポジウムの参加の呼びかけにも行きました。その事業者の方々に意見を聞きますと、行政が進めてくれるとやりやすいという意見を聞きました。当日、87名の参加で、有意義なシンポジウムとなりました。

この時に会場から出た質問に、名張市長が「伊賀市と一緒に広域でしたい」と答えてくださったのです。伊賀市のほうでも、9月議会の一般質問の答弁で、伊賀市長が「名張と一緒にやるほうが効果的と考える。名張市に働きかけて、議論を始めたい」と答えていたのです。シンポジウムのアンケート結果にも、広域で行うほうが良いという意見もあり、ごみ減量やマイバッグに対する市民の意識の高さが窺えました。

11月の県民環境デーにレジ袋の削減意識調査を伊賀市と名張市のスーパーでおのおの2時間行いました。このシンポジウムの後、今年の3月ぐらいまでの間にそれぞれの市が委員会なり検討会を立ち上げて行くんですが、そのだいたいの行政のほうの歩みというのは、先ほど伊勢市さんが話をされたような歩みだったのではないかと思いますし、両市とも伊勢市を参考に多分話し合いをして進めてきていたと思います。

この意識調査の結果がこの表なんですけど、この調査で分かったことは、環境に関心を持っている人が多いということと、レジ袋の有料化については半々で、レジ袋の必要な人も多かったです。なぜ有料化が必要なのか、ほとんどの人が知っていました。マイバッグについては、意識はあるけど実行が伴っていない。ごみを減らそうとする意識も高いという結果が出ました。

それで、12月から3月まで、私たち市民グループは何をしていたかと言いますと、シンポジウムでそのようにそれぞれの市長さんがやるという意向を示してくださったので、本当にやってもらいたいと願っていましたので、定期的に市の担当部局にその後どのぐらい進展していますかというふうなことを尋ねに行っていました。グループとしてどちらの市長にも面会を申し込みまして、意見を聞きました。この間、行政は連絡を取り合いながら進めていたようです。事業者や市民団体に参画の要請を行い、委員会立ち上げの準備をしていました。

名張市は、1月にマイバッグ持参推進市民会議として名張市快適環境審議会が兼ねることにしたようです。伊賀市のほうは、準備会が3月末に持たれたんですが、その時、3月末で環境部の担当者のほとんどが替わると聞きまして、本当にうまく引き継いでできるのかしらと、とても私は心配になりました。その後、4月下旬に第1回の検討会が開催され

ました。会の名前も議論の末、参画している団体が同じテーブルに着き、平等に意見を言うということで、検討会という名前になりました。

7月1日に有料化実施を名張市が打ち出しているの、合わせて欲しいという意向を聞いていました。伊賀市としては、3月末で4月、で、7月までと、はじめは準備する期間が短いので、無理だという意見も出たんですが、こういうようなチラシを作ったり、のぼりを作ったり、考えますと日にちが足りないと言われてたんですが、ないと言わないで、まだ2週間あるというふうに考えてやろうじゃないかという話になりました。

そして、チラシづくり、のぼり、そしてキャンペーンの時に配るティッシュの発注など、1ヶ月もなかったと思うんですが、それで行政の担当者は本当に大変だったんだろうなと思います。そして市民団体にキャンペーンの協力要請、市民団体はキャンペーンに出てくれる人の当番表を作成して、その協力を依頼しました。事業者への対応も大変だったようで、伊勢市のようにすべてが中部管轄だとスムーズに行ったようなんですが、伊賀の場合は奈良や大阪管轄の事業所もあって、少し温度差があり、参画していただき協定に持っていくまで少し苦勞がありました。

6月に入り、伊賀市は毎週土・日キャンペーンで、市民団体、それから行政の協力で行いました。これはちょっとしんどかったです。名張市は4日間ぐらいだったのかも知れないので、ちょっと楽かなと思いました。事業者の方々も、それぞれの店舗でマイバッグを何百個と出してくださったり、管内放送を流し、チラシやのぼりを立て、お客さんからの苦情の対応もしていただきました。

協定書の調印は、伊賀市が6月5日、名張市が6月11日でした。そして、6月30日に名張市役所において両市長による共同発表となったわけです。この共同発表の時に、名張市の亀井市長が、今回のことができたのは市民団体の協力が大きかったと言われました。そして7月1日、レジ袋有料化スタートで、両市長ともキャンペーンに立ちました。イオングループからの報告によりますと、この日、朝は90%以上行っていたので、これはすごいと思っていたら、夕方になると勤め帰りの人も多くなり、忘れていたりして83%から86%ぐらいに下がったということです。ちょっと店舗によって開きがあったようです。

今までお話したことを整理しますと、広域でできたことの要因は、両市長が広域で取り組もうと宣言したこと、それから市民、事業者、行政がそれぞれの役割を果たしたこと、県、それから市が積極的に動いてくださったことだと思います。

もう一つ忘れてならないことが、三重県温暖化防止活動推進センターの朴先生のお働き

です。伊勢市もそうでしたが、伊賀市、名張市のどちらもの委員会に参画してくださって
いました。

これからのことですが、レジ袋辞退率の調査を続け、出たデータを市民に報告すること
が大切だと思います。それから、レジ袋の収益金を今後具体的にどうしていくのか、マイ
バッグ運動をどのように広げていくのか、ドラッグストアやホームセンターなど、課題は
たくさんあります。

私が思っていることは、レジ袋の有料化は、ごみ減量の一つの手段です。環境問題を考
えた時に、1992年、今から16年ほど前なんですけど、リオ・デ・ジャネイロで初めて開か
れた地球サミットの閉会式で、並み居る各国代表のリーダーたちを前に、わずか12歳の女
の子がスピーチをしました。皆さん、覚えておられますか？子どもNGOの一員として参
加していた、セブン・スズキさんが言われた言葉、「どうやって直すのか分からないものを、
壊し続けるのはもう止めてください」。とてもシンプルな彼女のメッセージは、その場に
いた者だけでなく、世界中を駆け巡って、一人ひとりの生活者や政治的なリーダーの心を動
かしました。12歳の女の子の言葉が世界のエコシフトの歯車をグイッと回したのです。

エコシフトとは、エコにシフトすることです。経済を環境経済に転換させることです。
ここに来ておられる方々は、環境に対する意識の高い方々が多いのではないかと思います。
環境を守るためにどうしたらいいのかも情報をたくさん持つておられることでしょう。ぜ
ひ積極的に自分のできることからアクションを起こしてください。エコシフトしてくださ
い。「レジ袋は要りません」と、どこでも言えるようになれば本当に素晴らしいと思いま
す。小さなことですが、愉しんでやってください。エコシフトとは、人類が楽しく生き残
るために自分を変えること、社会を変えることです。

これで私の話は終わりです。どうもありがとうございました。

(司会)

立田様、大変ありがとうございました。

それでは、只今より意見交換の場とさせていただきます。伊勢市の阪本課長及び伊賀環
境問題研究会の立田様にご質問もしくはご意見のある方は手を挙げてお知らせください。

(参加者1)

大変貴重なお話をありがとうございました。松阪市はなかなか遅れているんですが、そ
こでこの96万使われた伊勢の取り組み、マスコミにも載せて良かったと思うんですが、立
田さんの「エコシフト」ということに関してもお聞きしたんですが、伊賀さんはキャンペ

ーンする時に普通の平服でキャンペーン活動している写真だったと思うんですが、伊勢さんは立派な法被を着てやってみえましたが、それも96万の中に入っていると思うんです。その法被は今どうされておりますか？今も使われておりますか？それとも倉庫に眠っているんですか？

(阪本)

実は、あの法被は伊勢市ごみ問題市民会議という、さっきの資料の中にも載せてあると思うんですが、その法被なんです。この伊勢市ごみ問題市民会議というのは、ごみの関係のいろんなグループに寄っていただいて、私どもが事務局で作っている会議なんです。ここで作製した法被で、これを活用したんです。

ですので、今もこれは活用しています。例えばごみゼロに合わせた早朝清掃には、市民会議の方にはそれを着ていただいて掃除に加わっていただくとか、勿論私どもも着るんです。この時、市長にも着ていただきました。これのほうが目立つでしょ。各店舗にキャンペーンに行った時にも必ずこの法被を持って行きました。

それから、私、ちょっと説明を端折りましたが、店舗でのキャンペーンでも市民団体の方に非常に協力いただきました。毎回1店舗に少なくとも3名、多い時は5、6名、交代で出ていただきました。婦人会とか消費生活学級とか、いろんな組織の方に出ていただき、非常にこれが力になりました。その時、全員の方にこの法被を着ていただいて、今も何かのイベントの時にはこれを活用するようにしています。

ですから、さっきの96万の中にはこの法被代は含まれていません。

(参加者1)

ありがとうございました。

余分に言いますけど、やっぱりエコシフトでこの環境問題をやっていきたいと思うので、法被の使い回しも大変結構ですし、例えば県が貸し出すとか、今もう少しやろうとしているところがもう一息動かないのを、伊勢さんのを借りてくるとか、そういうふうなことも考えられたらいいなと思います。

(司会)

ありがとうございました。他にご意見、ご質問のある方はお願いします。

(参加者2)

鈴鹿、亀山市は、この9月から同じようにレジ袋の有料化を実施するんですが、伊勢市さんのほうにお聞きしたいんですが、もうすでに1年実施されて、その1年の間に新たな

問題とか対策等が出てきたのかどうか、それをどういうふうに対応しているのか、その点何かこの1年間の有料化、マイバッグ運動を実施されたあとの課題、対策等がありましたら、ちょっと教えてください。

(阪本)

新たな対策というのではないんですが、やっぱり拡大をしていこうという当初からの思いがありました。はじめは食品スーパー、それも食品フロアだけなんです。これをもっと拡大していこうということで、コンビニとかいろんなところに声をかけました。ドラッグストアについては今のところ一部、2業者あるいは3業者さんにいい感触を得ています。

それから商店街でも、実は今、商店街の実績の掴み方をどうしようかと。やがて1年経ちますので、そのへんもやっぱり協定を結んで取り組んでいただいている以上、やっぱり何らか実績を把握しないといけないということで、すべての商店街の店舗に、商店街の会長さんを通じてアンケートをすることにしました。こういったことぐらいでしか実績が掴めないかなと思いますし、拡大についても新たに参入してくれるようなところをもっと発掘していかないといけないのかなと、そんなふうに思います。大きな、しかもレジ袋をたくさん使うような店舗に今絞っていますので、もっと個々の小さいお店までどういったふうに拡大していったらいいのかなと、今ちょっと悩んでいるところです。これぐらいのことだと思えます。

(司会)

ありがとうございました。他にご意見のある方。

(参加者3)

意見と言うか、要望になるかと思いますが、その前にちょっと伺いたいのですが、伊勢市さんのほうでは、市内のスーパーさん、これは全事業所さんと協定されたんですね。これは間違いありませんね。それと市民団体は、ここに書かれているように5団体、今は1団体増えて6団体になったんですね。

伊賀、名張のほうは、市民団体は今お話いただいた立田さん以外の市民団体は、いわゆるこれについて民間共同でやられていると思うんですが、何団体入られていますか？

(立田)

6団体ですね。

(参加者3)

で、最終的に事業者は全事業所じゃないですね。名張市は少なくとも店の中でやって

いない店もあります。イオンさんがメインで、あとはアピタさんとオークワさんがやられています。ほか大阪関係から出店されている企業さんはやられていないところも実際あります。先ほど講演の中でもお話があったと思うんですが、伊勢市さんのこの発表は、前回のごみゼロの時も多分あったと思うんです。その時はぎゅーとらさんも来られてお話いただいていると思うんです。その時にも私は入って伺っていましたので、この流れというのはかなり前準備がたくさんされていて、非常に根回しがいいようなお話でした。

今回、私は名張に住んでいるんですが、名張市のほうにクレームを付けたことがありまして、どういうことかと言いましたら、啓発がほとんど分からない。私は、3月に伊勢市さんのこれを見せてもらっているの、すごい土壌の中で早くからやられているんだなと思っていましたが、名張市に至っては、大々的に発表したのは6月ぐらいから、確かに新聞とか広報とかに有料化の話はありませんでしたが、マイバッグの問題とかはありました。けれども、市民を前にしてのシンポジウムや啓発活動はあまり見えない。今、何が起きているのかなと思ったら、名張市は4月にごみの袋も有料化されました。伊賀市のほうは昨年か一昨年に有料化になりましたね。

で、一番大事なところ、阪本課長がおっしゃられたように私もこれを言いたかったんですが、レジ袋有料化が目的じゃないということ。名張市はレジ袋が有料化になったり、ごみ袋が有料化になったよというのが目的のように思われるような啓発しか今していません。それは、ごみ袋の説明会の時にも私はクレームを付けて、みんなの前で言いました。今回もそうです。まず何を言いたいかと言うと、伊勢市さんのように全事業所さんと協定を結べていないということ。それと市民によくバナーと広げて見せたのは数ヶ月前。立田さんは、伊賀市にお住まいなんですかね。名張市のことはあまりお分かりいただけていないと思いますが、名張市の現状はこんな状況です。

名張市の方は、このキャンペーンと言うか、このセミナーを拝見した時に初めて名張市のごみが書かれているので、その時に名張市に文句を言いましたけど、今ここに来られている方で名張市の行政から今日のセミナーに来られている方、何名かおられたら非常にいいと思いますが、実際、来られているかどうか私は何ともよう言いませんが、今の実態は、申し訳ないですけど、そんなものです。やっぱりごみは減らしていかないといけないというふうな状況をまず第一に有料化するんだと、先ほど阪本課長がおっしゃられたようなことを、やっぱり他の市あるいは県さんを含めて中心になって、もっと前向きにやっていたかないと、「お金がかかるからしゃあないねん」というものの言い方が全面的に出ている

ようでは、進んでないんじゃないかなと。今後もどれだけ進むのかなということに対して、非常に疑問に私は思っています。

そのへん、すみませんが、特に立田さんに至っては伊賀の方で、市民団体の一人の方で今発表いただいたので、もっともつこのへんを伊賀地区で声を大きくしていただいて、今度どんどんご発表いただいて、行政のほうにも第三者的な、言ってみれば他人事みたいな、「結論がこうやからこれでええんや」というものの言い方じゃなくて、根本はレジ袋をできるだけ使わない、ごみをできるだけ少なくしていこうということが根本なんだというふうなことを全面に出していただいてお話いただければと思いますので、それだけ要望させてもらっておきます。以上です。

(司会)

私も行政を含めての意見ということでご意見をいただきました。大変ありがとうございます。

では、他に。

(参加者4)

辛口のご質問のあと、ちょっと言いにくいんですが、伊勢市さんの表の22番で、石油の使用量、ごみの量、CO₂の削減後を書いていただきましたが、70トン相当の可燃ごみ削減の中で、レジ袋はどれぐらい、何トンぐらい削減されたかということ把握されておられるかどうかということと、それから今後、レジ袋を成功なさせたあと、今度、ごみ袋の有料化に向かわれるのかどうかということをお教えいただきたい。

それから、伊賀のほうの立田さんに、この共同声明発表の時は私も見せていただきましたが、両市長が広域で取り組もうと宣言なさった時に、例えば県ないしは行政サイド、それから団体からのそのトップに対する働きかけをどういうふうにされたかというところの2点、お伺いしたいと思います。

(阪本)

それでは伊勢市のほうからお答えさせていただきます。

私、説明の中でちょっと端折りましたが、これは19年11月から20年3月の5ヶ月間、これだけのレジ袋が減ったという実績が出ていますので、これが勝手にと言うとおかしいですが、こういったことで試算をしました。

(参加者4)

この70トンというのは、レジ袋分ということですか。

(阪本)

はい。レジ袋1枚当たりだいたい10グラムとされています。だからそれで計算したらこれだけ減ったことになります。石油に換算すると1枚当たり杯1杯ぐらいですね。18ミリリットルぐらい製造にかかると一般的に言われていますので、その数字を使って計算すると、これぐらい削減できましたよという、あくまで試算でございます。

それから、伊勢市のごみ袋の有料化のことですが、過去に有料化というのは、伊勢市の廃棄物減量等推進審議会という組織もございまして、そこからも答申をいただいて、有料化の議論は議会の中でもされました。ただ、もっと他にごみの減量・削減の方策とか、そのへんに取り組んでから初めて有料化じゃないかという結論になったようです。ですから、今すぐ有料化ということにはなりません。

ただ、将来的には、国のほうも有料化のガイドラインを作ったりとか、そういうことになっていますし、当然、検討はしていかないといけないと思っております。以上です。

(立田)

両市長に意見を言っていたあと、シンポジウムでそういう答弁をするということは、やっぱりその責任として「やるんだろなあ」と、私たち市民はそう思っていたわけなんです。それが本当にするかどうかは実行してもらわないと分からないことなので、両市長ともに今後のごみ問題についてはどう考えていますかという話を含めて、私たち市民としては懇談の時を持ちました。住んでいる生活圏としては伊賀市として合併をする前、ごみ問題についてはこの名張市と伊賀市は三重県の中でねじれ現象を起こしてしまっていて、私の住んでいる旧の青山は、ごみの処理は名張市としているんですね。それでなおかつ、行政は伊賀市なんです。そういうふうなちょっとねじれ減少の部分もありまして、ごみの処分の仕方片方はRDFで、片方は焼却をしているという、そんな中でのことだったんですが、私たちの市民の活動は広域でやっていたものですから、RDFの時も、私たちは反対していたんですが、そういうふうになってしまったという部分もあるのです。できたらもうこの二つ合わせても人口は17万ぐらいしかないので、これから今後こういう施設を造るにしても、一つでいいんじゃないかと。そんな思いもあって、これをやるには生活圏は両方にかかって、どちらも行き来していますし、勤め先も伊賀市から名張市だったり、名張市から伊賀市だったりしているので、ぜひ買い物とか含めて、やっぱり両方でやってもらいたいという私たち市民団体の思いがあって、両市長には、大きな枠組みの話もありますが、市民団体としての願いも両市長に言いに行ったという経緯があります。

よろしいでしょうか。

(司会)

ありがとうございます。他にご意見、ご質問のある方、おみえになりますでしょうか。

では、時間になりましたので、本日のセミナーのほうはこれで閉会とさせていただきます。

最後に、本日講師を務めていただきました、広田様、阪本様、立田様にもう一度盛大な拍手をお願いできればありがたいと思います。

皆様、ありがとうございました。

ご来場の皆様、最後までご清聴いただき、ありがとうございました。

(終)

7/19ごみゼロ県民セミナー アンケート結果

※アンケート回答率 59% (参加者数100名、回答者数59名)

ご記入いただいた、主な意見をご紹介します。

Q1：広田 奈津子氏 ～消費者の声が企業を変える、ごみを減らす～

生活に直接ごみを不用とする問題が多くあることがわかりました。ぜひ不用なものを企業も見直す必要があると思いました。

お若いのにその行動力には敬服します。生活の場から出るごみは生活者が企業・メーカーと直接対話するということはとても大切です。おまけのつもりでもただのありがた迷惑たくさんあります。お話も具体的でむづかしい言葉もほとんどなくよかったです。

企業に提案する意見を考える楽しみをいただきました。

行動をしてみようという気になった。

消費者の、そして日本人の行動がいかに大きな影響力を持っているのかよく理解できた。小さなことと思わずに色々なことに疑問を持って行動につなげたい。

普通思うことを声に出していくことの大切さが企業を動かし、商品を簡素化されることを改めて感じました。

容器過剰包装、安全であるようにと必要以上にラップで包むサービス精神がごみを造る。消費者がごみを買う。企業へ提案。楽しい会話。歡心を持って実行したい。

Q2：伊勢市環境部資源循環課 阪本 保夫課長 ～レジ袋削減の歩み～

県内で初の取り組みで今後導入予定や検討を進める予定がある市町が増えた事は大変よろこばしい事です。どこの市町でも伊勢市さんの導入取組を参考にされることと思います。

レジ袋削減の取り組み、自分の町でも出来ればと思う。

地元の話題だけに知っているつもりでいましたが、知らないことの方が多かったのを知りました。長い時間をかけて検討されてきたことに驚きました。

レジ袋有料化のフロンティアとして今後の取組に期待したい。

Q3：伊賀環境問題研究会 代表 立田 彰子氏 ～レジ袋削減の歩み～

マイバッグ運動はとてもすばらしい市民運動です。津市も1日も早くマイバッグ運動を実施できるように。

広域で行う対策の問題点を解決して行ってほしい。また指導も願いたい。

行政との意識の違いをのりこえた苦勞がわかった。

伊勢市の場合と違って2市で行うというのは大変な苦勞があったと思う。

Q 4：今後、どんなテーマや内容のセミナーを希望されますか？ご自由にお書きください。

先進事例の紹介をしてほしい。例)ごみを出さない暮らし方を実践している人との交流会等

抽象的なものでなく、具体的なこと体験発表(生活者の立場で)などお願いします。

地域でごみゼロに活動している団体・人の話を聞きたい。

ごみ減量化対策(発生段階での)

先がけてレジ袋削減に取り組まれている市町があり、これから力を注ぐ市町もあり、県内全体で県民の方がどのように考えているのかを知りたくなりました。子供から大人まで年代による考え方の違いも知りたいと思いました。

子供、若者向けのごみゼロセミナー

ごみを出さない、繰り返し使う、再利用するという中で、特にごみを出さないという点での実例をもっと聞ければと思う。

三重県のごみ処理状況、及び不法投棄の状況。県が理想とするごみ処理・ごみ分別計画等、市民・県民参加型で。

Q 5：セミナーでお気づきの点等、その他ご意見等がございましたら、お書き下さい。

会場が近鉄・国鉄駅の近くでできないでしょうか？

全体会としては時間が長い。今後少人数20~30名程で対談方式、又は全体会・分科会などで行われることを望む。

今後ごみゼロは大事なこと。もっと狭い範囲(自治体・自治会)などでPRをしては。三重県全域でレジ袋0を目指すが良い。

セミナーに参加したことで、自分がしてなかったごみ対策に気づくことができました。DM(ダイレクトメール)の受け取り拒否は今日から始めていきたいと思えます。

多くの質問がとびかい意識の高い方が多いのに驚かされました。

津市以外でもセミナーを開いてはどうですか？

“生活”に密着した意見が出ていたと思えます。

一人一人がエコについて、考えてゆく時代だと思います。もっと具体的なエコについて、提案場を設けてゆくことにより意識を高めてゆけるのではないのでしょうか。

参加者は感心があり、意識の高い方ばかり。ここに来られない人に聞いていただける手法があるといいなと思えます。

これからもどんどん参加して勉強してみたい。

スーパーなどの店頭でもっと、もっとアピールしてもよいのではないのでしょうか？